

日得たビールの知識を思い出しながら晩酌を楽しませていただきますとユーモアを混えたお礼を述べて、午後3時同社を辞しこちよくパスにゆられて東京駅へと帰路についた。
(桐林武彦)

第 6 班

東京電力(株)横須賀火力発電所

午前8時20分品川駅前よりバスで第1番目の見学先、横須賀火力発電所に向かい10時45分に到着した。ただちに同所小林課長より所内概況説明があり続いて映画「炎」の上映があり更に1/80の模型による機構説明があり、所内見学を行なった。巨大な設備の運転操作は、ボイラー、タービン、電気ともに中央操作室で集中制御が行なわれており、コンピューター使用による高度のオートメーション化が行なわれていた。現在は1号機から5号機までで合計158万kWの世界最大級の火力発電所であり6号機が42年度に、以下7号8号機と建設計画があるとのことであつた。ボイラーは双炉型(石炭のほか重油だけ、または石炭と重油の混焼もできる。1,2号炉と重油専焼の屋外式ボイラーの3,4,5号炉があり、これらすべて缶水循環に強制循環ポンプが使用されているそうである。そのほかタービン発電機も非常に大規模なものであり、送電設備で塩害対策として、エレファントタイプで遮断器などの開閉装置は大きな建物に包まれており超高圧変電所は屋内式で出口の壁抜き套管は活線でも水洗いできるとのことだ。このようにして富士川以東を含む関東一円、人口2850万人、東京都をはじめ、京浜、京葉臨海工業地帯に電力を供給している。今日もま

た平和のためのエネルギーは力強く作られていたが、この巨大なエネルギーを後に12時20分見学を終り、再びバスで第2の見学先、日本鋼管鶴見造船所に向かった。途中の交通ラッシュで予定よりかなりおくれ、2時15分に到着した。

日本鋼管(株)鶴見造船所

先ず遠山庶務課長より概況説明があり同所の特色として鉄と船とプラントを一貫して製造していること、また現在は10万tが最大入渠であるが将来は30万t級のものも建造しようという構想があるということだ。材質的には高張力鋼の使用率が非常に高いそうだ。また南極観測船「ふじ」も同所で建造された。説明を聞いて直ちに所内見学に入つた。近代技術を充分取り入れ20~30tの小組立て、更に80~100tの大組立てを見学、まるでプラモデルでも作るかのように、次々に組合せ溶接され眼前のリペリヤの54,000t、ノルウェーの55,000tの船が建造される。特に充実した設備と優秀なる技術運営の合理化により工期が非常に短縮され数万tの船でもボタン操作で動くので経済性の高い船ができることになる。今日もまたコスト低減と技術の結集をモットーに作業は進められており巨船に見送られ4時に同所見学を終了した。なお協会学会を代表して大同工業大学関口教授からそれぞれ感謝の意を表明、お礼が述べられたが、ここに紙上をかりて重ねて東京電力横須賀火力発電所と日本鋼管鶴見造船所のご厚意に対しまして厚くお礼申し上げ、更に発展されるよう心からお祈り申し上げます。

(小島令靖)

正 誤 表

鉄と鋼, 53 (1967) 3, p. 286 (第73回講演大会講演論文)
(69) 表面活性成分を含む溶鉄の窒素吸収速度と表面張力の関係
(溶鉄の窒素吸収速度に関する研究—Ⅱ) 名大工・井上道雄, 長 隆郎

ページ数行数	誤	正
287, 左下5	$d\sigma/dc = -194/C$	$d\sigma/dc = -194/C \dots (3)$
287, 右上2	Fe-O :	Fe-S :
287, 右上9	したがつてあるいは酸素濃度	したがつてある酸素濃度
287, 右下9	ただし活量を近 a 似的に	ただし活量 a を近似的に
287, 右下9	Tは	Γ は
288, 右上9	$\sim 1000 \text{ dyn} \cdot \text{cm}^{-1}$	$\sim 1100 \text{ dyn} \cdot \text{cm}^{-1}$